風にのって、羽ばたく。

［2017年・新春］

NIKI HEARTY HOSPITAL
広報誌 Vol.25
Take Free.
ご自由にお持ちください

心に安らぎのそよ風を。

http://www.niki-hp.or.jp

そよ風のてがみ

2017年
「新たなる旅立ち」

復興支援活動
DPAT活動報告
ニキ・アルバム
部門紹介
本のはなし
新入職員紹介
かんたんレシピ
［ロールキャベツ］

●外来診療のご案内

・受付時間／8:30～11:30、13:00～16:30 ※初めての方は待ち時間解消のため、お電話でご予約ください。
・診療時間／9:00～12:00、13:00～17:00 ※ストレスケア外来・ストレスカウンセリングは、ご予約の上ご来院ください。
・休 診 日／土・日・祝日 ※再来急患の場合は、その限りではありません。

理事長	仁木 啓介
院 長	寺岡 和廣
副院長	岩渕 龍太／宮里 哲也
医 師	天野 浩一朗／山田 良／永石 裕幸／児玉 修／倉元 涼子

再来予約専用
TEL.090-1779-5326、TEL.096-383-7810
<電話予約受付時間(平日のみ)>
午前8:30～12:00、午後1:00～5:00

●診療費のお取扱いについて

［窓口でのお取扱い時間］
平 日…午前9:00～午後5:00
土 曜…午前9:00～午後12:30
※土曜日の午後、日曜日、祭日のお取扱いはしておりません。

［口座振替］
ご指定の口座より自動振替えによる、入院費・日用品代のお支払いができるサービスを行っております。定期的に来院するのが大変な方、遠方からお越しの方等、大変便利なサービスとなっておりますので、ぜひご利用ください。

［クレジット・クイックペイ］
入院費・外来診察料・カウンセリング料のお支払いが可能です。
一括払いのみとなります。分割払い・リボ払いはお取扱いしておりません。

●保険証の確認について

外来…診察毎時　入院…月1回 ※窓口での提示をお願いします。

●お問い合わせについて

初めての方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・TEL.096-384-3111
一般外来・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・TEL.096-383-7810
（診察予約・変更・キャンセル）　TEL.090-1779-5326
ストレスケア外来・カウンセリング・・・TEL.096-383-4679
（診察予約・変更・キャンセル）
デイケアに関すること・・・・・・・・・・・・・TEL.096-384-3151

＜医療機関・地域包括支援センター・介護施設のご担当者様へ＞
各種お問合せは地域連携室で対応させていただきます。

基本理念

ニキ ハーティー ホスピタルは、患者様の心を癒し、社会で安心して生活が出来るように手助けをします。
患者様、ご家族、地域の方々に寄り添った、家庭的で心の通った医療とサービスを提供します。

ニキ ハーティー ホスピタル
NIKI HEARTY HOSPITAL
［精神科・神経科・神経内科］
医療法人仁木会
ニキハーティーホスピタル
〒862-0920 熊本市東区月出4丁目6-100
TEL 096-384-3111

2017年、私たちの「新たなる旅立ち」

文／理事長 仁木 啓介

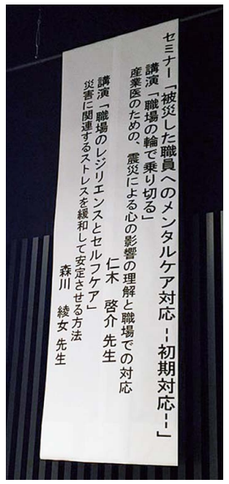
たくさんの温かい心に触れ、信頼と強い絆を感じた熊本地震。

理事長 仁木 啓介

平成28年4月14日（木）午後9時26分前震、4月16日（土）午前1時25分本震と、立て続けに熊本を震度7の地震が襲いました。当院は、震源地から6キロメートル程の距離でしたが、幸いなことに前震では大きな被害は少なく、被害を受けた他の精神科病院から患者様の受け入れを行い、他の病院への支援を行いました。しかし、地震発生時には、電話での緊急連絡網が全く機能しなかったため、即日ＬＩＮＥでの病院管理職グループを作成しました。本震では多々被害がありましたが、ＬＩＮＥでの連絡網が功を奏し、情報の共有と対処が迅速にできたと思います。

本震から2日後の月曜日、私の外来に来た患者様の中には、ＳＯＳを出すこともできず、避難所にも行けず、飲まず食わずで受診する患者様も多くいました。そのため、外来でもおにぎりと水を自由に持って行けるようにセッティングしました。熊本地震は悲劇でしたが、スタッフ間の信頼と絆を強くしてくれました。この仲間と、日本中の多くの支援者の方のお陰で、今のニキハーティーホスピタルがあると思います。今でも、当時のことを考えると感謝で涙腺が緩んでしまいます。心よりお礼を申し上げます。

我々が、水や食料に困っているのをネットで知った全国の方から沢山の支援物資を届けて頂きました。長崎より物資を確保し、苓北から軽トラックで何回も届けてくれたり、仙台や新潟から無洗米を自らトラックを運転して、更に、道中物資を購入しながら届けて下さったり、当院の患者様のために特別に毎朝パンを焼いて頂いたり、ここにあげたらきりがないほど、多くの方々の温かな支援で、地震被害の危機を乗り越えることができました。支援されたお米を炊くにも病院では大きなガス釜で炊きます。水道が出ないと米も研ぐことができません。無洗米を確保して、スタッフに電気釜を持ち寄ってもらい、様々なコンセントに差し込み、あちらこちらでご飯を炊きました。総動員でおにぎりを作り、全てのスタッフが自由にいつでも食事ができるように対応しました。



人から人へ、広がるセルフケア

私は、ストレスをはじめＰＴＳＤなどのトラウマの治療を専門にしています。今回の地震被害で多くの人にダメージと無力感を与えました。当院のスタッフも同じです。まず、私の最初の役割は、病院の機能回復と、職員が日常の仕事や生活を送れるようにすることです。親にとって子どもを守るという大きな役割があります。保育士を確保し院内に保育所を設けることで、そのお手伝いをするということです。子どもが医師の医療チェックを受け、院内で安心して保護されながら保育を受けているのをみると、ご両親の表情は安心した表情に変化しました。トラウマ対策としては、毎朝ミーティングの冒頭に、セルフケアのテクニックを教えグループセラピーを織り込みました。その後、院内で研修会を行い全職員に集団療法を行いました。また、地震直後より全職員に臨床心理士のカウンセリング的面接も行っています。当院の対応を行いながら、水面下で地域への熊本地震対策を行ってきました。私は、日本ＥＭＤＲ学会（ＰＴＳＤに対して最も効果がある治療法）の人道支援委員会（ＪＥＭＤＲＡ－ＨＡＰ）の委員長をしています。東日本大震災、広島土砂災害、九州北部豪雨などで現地の治療者（医師、心理士）に治療法や対応法を指導したり、地元の学校の先生に対して子どもへの対応を教えながら心理教育も行っています。私の役割として、「人は、地震等の災害でどの様な反応が心や身体に起こり、また、どのように対処したら良いのか」について心理教育を含め、熊本の皆様に早急に伝えなくてはいけないと考えました。そこで、熊本県下の企業や公的機関、子どもや、様々な公的団体に対して、数多く

YMCA赤水保育園「こどものメンタルヘルスケア対応」

対応をさせて頂きました（P.4）。熊本地震の初期対応としては、受けた災害の内容にフォーカスを当てる対応は好ましくなく、また上手く表現できない子どもへの対応においても言語を中心としたものは、避けるべきと考えました。また、十人十色の被害について、単一のトラウマ治療だけがオールマイティーに効果を示すのではないと考えます。従って、ＥＭＤＲ、ＴＦＴ、ブレインジム、動作法などの組み合わせで初期対応を行うために、ＥＭＤＲ学会理事の東京学芸大学教授　小林正幸先生、日本ＴＦＴ協会理事長　森川綾女先生、ブレインジム教育財団法人優愛　今道久恵先生の協力を得て、それぞれを状況や対象者に応じて講演や研修パターンを変えて行いました。受講者の対象は、子ども、親子、一般市民、保育園から高校までの先生、医療者、産業医、行政職員（警察、消防含む）、企業人など多岐に渡ります。今回、特に力を入れたのは、支援者支援です。被災した支援者を支えセルフケアを教え、その支援者が対応する人達に更にセルフケアを伝え、それを受けた人が家族や周りの人にケア的な対応ができれば、水の波紋のように広がりをみせ、効率よく地震対策ができると考えました。

熊本の復興へ向けて一緒に歩む

エラン・シャピロが多くのトラウマ研究を解析した結果、急性ストレス反応を起こした人の7割は回復。ＰＴＳＤ患者の内3割が急性ストレス反応からの移行で、無症状やうつなどの症状から3割が発症し、4割は症状も無かったのに半年を過ぎてからＰＴＳＤを発症するとしています。熊本地震の場合、余震が長期に続いているため、更にＰＴＳＤの発症が遅延してくるものと思われます。たとえＰＴＳＤ症状があったとしても、それが治療の必要性がある状態であるのに、我慢をしている人や、体の不調で内科を受診しても、異常なしと診断されてしまうケースがあります。

ＪＥＭＤＲ-ＨＡＰは、日本での災害対策として、平成27年にエラン・シャピロからＰＴＳＤの集団治療のプロトコル（ＧＩＴＥＰ）を頂き、平成28年冬には運用できるように準備を進めていたところでした。熊本地震が発生したため、前倒しして9月に、当院において全国からトラウマセラピストを集め、第一回ＧＩＴＥＰ研修会を、実践的なロールプレイを交え開催致しました。今後も引き続き熊本での地震対策としての講演や研修会が、いくつも予定されています。また、予想される関西の南海トラフ大地震、名古屋、関東の地震対策として、和歌山、名古屋、東京でも地域の医療者、心理士に対してＧＩＴＥＰ研修会を予定しています。地域への貢献は当然ですが、日本国内のトラウマ治療にも幅広く貢献していきます。

ニキハーティーホスピタルは、これからも熊本地震の復興と一緒に歩んでいきます。熊本を支援して頂いた全国のみなさま、当院を気遣って支援の手を差し伸べて頂いたみなさま、熊本地震を知り熊本を心配して頂いたすべてのみなさまに、心より感謝致します。

上／被災児童招待キャンプーあそぼうキャンプ宇部
下／済生会熊本病院「職場でのセルフケア」講演会

5月22日 公開講座 －森都心プラザにて－

復興支援活動 ／ 震災後の公演活動

活動日	公　演	主　催	共催・後援・協力団体	会　場	参加者
2016 4／26	セミナー「職場の輪で乗り切る」	肥後銀行	JEMDRA-HAP（日本EMDR学会人道支援プログラム）	肥後銀行本店	290名
2016 5／20	地震対策メンタルケア研修会 「職場の輪で乗り切る」（講師：仁木啓介） 「職場のレジリエンスとセルフケア」（講師：森川綾女）	熊本国税局	国際連合世界人道促進機構（UN-WHF）、ニキハーティーホスピタル、JEMDRA-HAP、日本TFT協会	熊本国税局	60名
2016 5／20	「被災した職員へのメンタルケア対応／初期対応」 「職場の輪で乗り切る」（講師：仁木啓介） 「職場のレジリエンスとセルフケア」（講師：森川綾女）	熊本県精神保健福祉協会、労働者健康安全機構 熊本産業保健総合支援センター	国際連合世界人道促進機構（UN-WHF）、ニキハーティーホスピタル、JEMDRA-HAP、TFT協会・教育財団優愛	肥後銀行本店	産業医、企業管理職、行政職員 258名
2016 5／21	H28年熊本地震セルフケア講習会 「被災を受けた支援者の心理」（講師：仁木啓介） 「職場のレジリエンスとセルフケア」（講師：森川綾女）	国立病院機構 熊本医療センター	国際連合世界人道促進機構（UN-WHF）、ニキハーティーホスピタル、JEMDRA-HAP、日本TFT協会・教育財団優愛	国立病院機構 熊本医療センター	医師、看護師、心理職、警察、消防、行政職員 150名
2016 5／22	公開講座「災害後の心の安定を目指したケアのあり方」 「被災された方の状態、こころの反応の仕組みについて」（講師：仁木啓介） 「コミュニティや家族でできるこころのケア」（講師：森川綾女）	九州地区 EMDR勉強会（KSG）	国際連合世界人道促進機構（UN-WHF）、ニキハーティーホスピタル、JEMDRA-HAP、TFT協会・協力：優愛（ブレインジム）	森都心プラザ	教育、福祉、医療関係などの支援者一般 128名
2016 7／2	午前の部／小中学生編 「学校で取り組める被災後の子ども達のこころのケア」 （講師：小林正幸、仁木啓介） 午後の部／高校生編 「災害の初期、中期に行う子どものこころのケア」 ～学校でしかできない教師・スクールカウンセラーの支援とは～ （講師：小林正幸、仁木啓介）	九州地区 EMDR勉強会（KSG） SunSum（養護教諭で構成される自主研修グループ）	JEMDRA-HAP 国際連合世界人道促進機構 日本TFT協会 教育財団優愛	熊本大学 医学部	教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、学校支援に関わる教育関係者 午前の部／50名 午後の部／58名
2016 7／3	午前の部／ 「子どもの心のケアと被災した支援者のセルフケア」 午後の部／ 「災害の初期、中期に行う子どものこころのケア」 （講師：小林正幸、仁木啓介）	熊本県	JEMDRA-HAP KSG 国際連合世界人道促進機構 日本TFT協会 教育財団優愛	熊本県庁	保育所（認可外含む）、認定こども園、幼稚園、地域型保育事業所の従事者 170名 放課後児童クラブ従事者、放課後こども教室関係者、教育活動推進員 180名
2016 7／7	「災害後のメンタルヘルスケア対応」 （講師：仁木啓介、今道久恵）	熊本県 精神保健福祉協会	JEMDRA-HAP、KSG、国際連合世界人道促進機構、日本TFT協会 、教育財団優愛	熊本県 精神保健福祉センター	こころの電話 電話カウンセラー 40名
2016 7／8	「こどものメンタルヘルスケア対応」 （講師：仁木啓介、今道久恵）	熊本YMCA	国際連合世界人道促進機構 日本TFT協会	赤水保育園 黒川保育園	尾ヶ石保育園、赤水保育園、永草保育園、黒川保育園 園児 250名／職員
2016 7／8	「職場でのセルフケア」 （講師：仁木啓介、今道久恵）	熊本県保健福祉協会	JEMDRA-HAP、国際連合世界人道促進機構、日本TFT協会、教育財団優愛	阿蘇市役所	阿蘇市役所職員 120名（2回講演）
2016 7／9	「被災した職員及び家族へのメンタルケア」 （講師：仁木啓介、今道久恵）	独立行政法人 労働者健康安全機構 熊本産業保健総合支援センター	JEMDRA-HAP、教育財団優愛、国際連合世界人道促進機構、日本TFT協会	男女共同参画センター はあもにい	親子（3歳児～） 104名
2016 7／10	「対人支援職に就くかたのためのブレインジム」 ～姿勢観察を通じた運動特性の理解と支援のありかたについて～ （講師：今道久恵、仁木啓介）	JEMDRA-HAP KSG	教育財団優愛	当院	医師、臨床心理士他、保健・医療・福祉・教育関係者などの対人支援職 50名
2016 7／20	支援者支援 「職場でのセルフケア」 （講師：仁木啓介）	恩賜財団 済生会熊本病院	JEMDRA-HAP、国際連合世界人道促進機構、日本TFT協会、教育財団優愛	済生会熊本病院	済生会病院職員及び関連医療機関職員 250名
2016 8／3	芦北町教育研究大会 「教職員のメンタルヘルスーセルフケアを中心に」 （講師：仁木啓介）	芦北町教育委員会	JEMDRA-HAP（日本EMDR学会人道支援委員会）	芦北町多目的研修センター 大会議室	芦北幼稚園、芦北町立小中学校全職員 130名
2016 8／18～20	東日本大震災・H28年熊本地震 被災児童招待キャンプーあそぼうキャンプー 宇部	熊本YMCA、JEMDRA-HAP	阿蘇市社会福祉協議会、山口県立こころの医療センター、カトリック宇部協会、ワイズメンズクラブ	宇部市	幼稚園児～小中学生 40名
2016 9／1	熊本地震災害における支援者支援 「震災による心の影響と理解」～こどもといっしょに～ （講師：仁木啓介）	宇城市	JEMDRA-HAP、熊本県精神保健福祉協会、教育財団優愛	宇城市役所	保育士・幼稚園教諭、調理師
2016 9／3	熊本地震災害における親と子どものトラウマケア 「こころのケアについて」 （講師：仁木啓介、今道久恵）	高森町	JEMDRA-HAP、熊本県精神保健福祉協会、教育財団優愛	高森総合センター	南阿蘇地域の住民（親子）保育士、幼稚園教諭、行政職員
2016 10／6	こころの健康づくり講演会	八代市	JEMDRA-HAP	八代 ハーモニーホール	八代市民 約100名
2016 10／16	地震後のこころのケアとスポーツについて	阿蘇郡市教育委員会	JEMDRA-HAP、教育財団優愛、世界の医療団	生涯学習センター 山河の館	阿蘇圏域スポーツ推進員

上記以外の活動状況は日本EMDR学会「JEMDRA HAP」ホームページに随時掲載しています。

テーマ／

新たなる旅立ち

文／院長 寺岡和廣

院長 寺岡 和廣

被災者の心の声に耳を傾けること

「こころを救う。」

このたびの熊本地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

未曾有の震災から早8カ月余り経ちます。発災当時を振り返ってみると、病院内外共に様々な情報が溢れかえり、不安と混迷の渦中に叩き落されたような気持ちでした。

本震発生後、被害状況を精査し災害対策会議を開き、スタッフ総力をあげ通常の診療体制を維持する方針が立てられ、受診希望者の早期の診療応需、外来患者様の安否確認と受診困難者の送迎、訪問看護によるフォロー、食料品や生活必需品の確保、一部外来患者様・職員向けの避難所の設置、臨時託児所の運営に注力することになりました。建物が大きく破損し、ガス・飲料水は供給されず、食料品も届かないという過酷な状況で、目の前にいる患者様の命を守る責務を果たそうと職員一同必死でした。心身に過大な負担を負う最中、全国各地から多大なご支援・励ましのお言葉を賜り、どうにか乗り切ることができました。心より深く御礼申し上げます。

発災直後から3カ月間の診療状況をまとめたところ、初診者数は30％以上増加し、震災に関連する症状を主訴に初診された方は①急性ストレス反応（ASD）、②認知症のBPSD等の急性増悪、③元々の精神疾患の増悪化や再発、④過負荷によるうつ状態（主に自治体職員・教職員）と大別されました。中でも②が深刻で、近隣の地域包括支援センターや介護施設からのご希望が一時殺到する事態となりました。可能な限り対応させていただきましたが、一部どうしても調整できずお断りせざるを得ない方もあり、大変恐縮に存じております。一方発災から3カ月の入院者の60％以上が震災関連の症状・事情が理由での入院でした。今後もしばらくは震災に関連する症状等により受診される方が続くと思われます。

被災地域に存する精神科医療機関に勤める医師として、一人でも多くの方のこころの安寧に寄与するために、日々の診療において被災者の声に真摯に耳を傾け続けようと思います。

また、このたびの地震をきっかけに、保健・医療や介護・福祉、教育など第一線で活躍されている方々と知遇が得られました。私共にとって大きな財産であり、皆様のおかげで復興支援への決意がより強いものへと変わりました。今度ともよろしくお願い申し上げます。

平成28年5月24日付　熊本日日新聞

たくさんの様々な物資を頂きました

自衛隊のご協力で救援物資搬送

DPAT活動報告

災害時の精神科医療とは

阿蘇郡西原村―熊本市中心部から東に約20キロメートル、阿蘇カルデラの西麓に位置する人口約7000人の村です。俵山にそびえ立つ白い10基の風車、青空と深緑の山々と若草色の田畑のコントラストは阿蘇の雄大さを感じさせる象徴的な風景です。

西原村は熊本地震で震度7を記録し、死者5名、村の家屋の6割以上が全半壊という甚大な被害を受けた地域です。当院は熊本県のDPAT派遣委託を受け、平成28年6月21日より10月28日まで西原村・菊池圏域で活動致しました。医師・看護師・臨床心理士・精神保健福祉士からなるチームを編成し、避難所巡回や戸別訪問により心身の不調を訴える方の診察や、阿蘇保健所・西原村の保健師さんを主軸とした関係機関との連携・支援を行いました。活動開始直後大雨による二次被害も発生し、梅雨が明けたのち崩落した山肌を目の当たりにして、自然災害の恐ろしさを改めて見せつけられ慄然とする思いでした。西原村・DPAT調整本部と協議の上、日赤こころのケアチームの活動を引き継ぐ形で、平成28年7月に西原村役場内に「こころの健康相談」窓口を開設し、メンタルヘルスに関する相談に対応いたしました。当院チームが担当した計26日の活動において、地震が人々のこころと生活に及ぼした影響の深刻さを痛感するとともに、災害精神医療の重要性、支援者間の連携の重要性を実感いたしました。

DPAT調整本部をはじめ、西原村・阿蘇保健所、宮崎県並びに佐賀県DPAT、岡山市・宮崎市・愛媛市の保健師チーム、世界の医療団等数多くの方々と関わり、地域の実情や発災当初から続く支援等多くのことをご教示いただきました。今後の復興支援の糧とする所存です。ご指導いただき誠にありがとうございました。

被災された方々のこころの安定を取り戻すには時間と支えが必要と考えます。DPAT活動は終了いたしましたが、地震に関連した症状によって受診を希望される方が増加しています。今後もますます関係自治体・機関・団体と連携が必要と考えております。被災地域の皆さまのこころの快復のために、できる限り支援を続けさせていただきたいと思います。

DPATとは

Disaster Psychiatric Assistance Team

自然災害や犯罪事件・航空機・列車事故等の集団災害が発生した場合、被災地域の精神保健医療機能が一時的に低下し、さらに災害ストレス等により新たに精神的問題が生じる等、精神保健医療への需要が拡大する。このような災害の場合には、被災地域の精神保健医療ニーズの把握、他の保健医療体制との連携、各種関係機関等とのマネージメント、専門性の高い精神科医療の提供と精神保健活動の支援が必要である。このような活動を行うために都道府県及び政令指定都市によって組織される、専門的な研修・訓練を受けた災害派遣精神医療チームがDPATである。
（厚生労働省HPより抜粋）

ニキ・ハーティーホスピタル 秋祭り 2016

ニキハーティーホスピタル秋祭りは今年で12回目を迎えました。今回熊本地震から約6か月後の開催であったことから、患者様はもとより地域の皆さまにご提供できるものはないか協議に協議を重ね、地域復興支援イベントと位置づけ、「患者様とご家族、地域の方々、当院職員が一緒に楽しむ」をコンセプトに秋祭り実行委員会で企画を練りました。

当日早朝から小雨が降る中、オープニングセレモニーを始めましたが、どうにか昼前頃から雨も止みました。カラオケ大会に始まり、職員総踊り、医師による歌謡ショー、キッズダンス・バルーンアートのステージアトラクション、御船町のゆるキャラの「ふねまる」くんによるパフォーマンス等々盛りだくさんのイベントでした。過去最多の約350人の方々にご来場いただき、さらにオープニングからイベント終了まで多くの方々が長い時間ご参加いただいたことがとても印象的で感慨深いものでした。ただ、参加者が想定をはるかに超え、屋台で準備していた食品が早々に売り切れてしまう事態になってしまい、大変心苦しく思います。この反省を本年につなげ、もっと楽しく盛大なイベントを開催したいと思います。

ダンススタジオＮｅｗＡｇｅのみなさん、ふねまるくん並びに御船町職員の方々、企画から会場設営までご尽力いただいた株式会社アドルーム様、ご来場いただいたみなさまに心より深く感謝申し上げます。

秋祭り実行委員　一同

ニキハーティー ホスピタル

Niki Album

爽やかな秋空の下、溢れる笑顔と風を感じて。

＼ こころの健康フェスタ ／

平成28年9月11日（日）こころの健康フェスタ（熊本県精神保健福祉協会主催）が開催され当院も参加しました。当日は秋晴れの中、作業療法・デイケアで製作したビーズ細工、モザイクアート、アロマキャンドル、シュシュなどの作品を展示・販売しました。

たくさんの方に作品を手にとっていただいたりお話したりすることで、活動の様子など知っていただくことが出来ました。この機会を今後の作業療法・デイケアでの活動にも活かしていきたいと思います。皆様ありがとうございました！

かんたんレシピ

変わりだね
［ロールキャベツ］

材料（4人分）

- キャベツ……8枚
- エビ……100g（処理済みのもの）
- ほたて貝柱缶……100g（あれば）
- はんぺん……大1枚
- 豚ひき肉……100g
- 万能ネギ……4〜5本
- A
  - 生姜のしぼり汁……小さじ1
  - 塩・コショウ……少々
  - 酒……大さじ1/2
- スープ
  - お湯……4カップ
  - コンソメ（固形）……2個
  - 塩・こしょう……少々

作り方

①キャベツの芯の部分を削ぎ取り、沸騰したお湯で茹でる。

②茹でたキャベツを冷水にくぐらせ、ペーパーで水気を拭き取る。

③エビは粗刻み、ほたて貝柱はほぐす。

④はんぺんは手で潰し、万能ねぎは小口切りにする。

⑤③と④の中に豚ひき肉を入れAの調味料を混ぜ合わせる。

⑥たねを8等分し、キャベツに包む。

⑦鍋にスープを作り、包んだロールキャベツを並べ入れて煮込む。

⑧出来上がったら器に盛り、お好みでケチャップとマヨネーズを混ぜたオーローラソースをかけ、パセリを散らして完成。

POINT　キャベツは胃炎や潰瘍の回復に効果があるといわれているビタミンUを含みます。また、ビタミンCやカルシウムも豊富に含まれています。はんぺんを使用することで、豚肉使用時よりエネルギーは半分になり、ヘルシーでふっくらとした仕上がりになります。

New Face Introduction

新入職員紹介

有木 千華
作業療法士

好きな食べ物は鶏肉です。手芸が好きで編み物を勉強中です。主に入院患者様の精神科リハビリテーションに関わっています。

永石 裕幸
精神科医

平成27年10月より勤務しております永石です。趣味はDIY、ドライブです。阿蘇が好きでこの前も復興割りを利用して阿蘇の温泉まで行って来ました。「皆同じ人間だ」と敬意を持って接したい、そんな風に考えている私です。

天野 浩一朗
精神保健指定医

平成28年4月より勤務しております天野です。趣味はカメラ・温泉・読書です。てんかんや認知症についてこれまで勉強してきました。みなさんの力に添えるよう頑張ります。よろしくお願いします。

宮川 裕奈
事務

先の熊本地震で、前職場が甚大な被害を受け仕事ができなくなりましたが5月から当院に勤務しています。患者様が安心して診察を受けられるよう、受付でお待ちしています。

小松 慶子
臨床心理士

好きな食べ物は関西風お好み焼きです。作るときはへらを押し当てず、返す回数を少なくするとふんわりと美味しく焼きあがりますよ。

浅山 耕介
臨床心理士

好きなことは寝ること、ラーメンを食べることです。特に豚骨ラーメン・細麺が好きなのでお薦めのラーメンがあれば是非教えてください。

編集後記

今号より、『そよ風通信』から『そよ風のてがみ』に刷新いたしました。これまでよりもより読みやすく、読んだ方によりニキハーティーホスピタルを近くに感じてもらえる…そんな心のたよりになれるよう委員一同努めていきたいと思います。

Bumon Introduction
部門紹介

ー人と医療と地域をつなぐー　地域連携部

様々な治療ニーズに迅速に対応し、受診・入院・地域移行・在宅支援に至るまで包括的かつシームレスなサービス提供、関係機関との連携強化を目的に地域生活支援課・デイケア・訪問看護の各セクションを統合して地域連携部が発足しました。

主なミッション

1. **受診希望者の相談対応と受療支援**
2. **関係機関との連携**（医療・介護・福祉・教育等）
3. **相談支援、地域移行支援**（退院前訪問指導等）
4. **デイケア・訪問看護**（アウトリーチ）**による在宅生活支援・地域定着**
5. **企業等向けのメンタルヘルスサービス**（ストレスチェック等）

わたしたちの役割と、やるべきこと

熊本地震に際して、発災直後より受診や入院のご要望に可能な限り対応させていただき、当院からも生活支援が必要な地域の方々のご支援をお願い致しました。平時の連携と相互信頼関係の構築の重要性を再認識した次第です。
また、地震後から様々な企業様からもメンタルヘルスに関するご相談が寄せられています。昨年よりスタートとしたストレスチェック制度も含め、サービス調整やツールの開発に着手しています。
精神科医療機関へのニーズは増加の一途を辿っており、多種多様な治療・サービスの提供が求められていると痛感しています。治療や支援が必要な方々にとって、当院が有益な資源の一つとして機能するよう微力を尽くす所存です。今後ともご指導のほどお願い申し上げます。

地域連携部 部長／精神保健福祉士　片山 淳一

書籍紹介 本のはなし

［天野医師 推薦］

No.001

BOOK

『てんかんテキスト 理解と対応のための100問100答』

南江堂
（著）清野晶一、八木和一

当院に勤務してんかんの患者様をご紹介いただくことが増えました。てんかんという病気の成り立ちや日常生活での対応など主に身近な患者様のことを基にわかりやすく解説されています。てんかんを理解するための入門書として医療・介護・福祉に関わる方々にお薦めする一冊です。